様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1 -②を用いること。

学校名	兵庫教育大学
設置者名	国立大学法人兵庫教育大学

1.「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名		夜間・ 通信		実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数			省令である	配置
	学科名	制の場合	全学 共通 科目	学 等 共 科 目	専門科目	合計	基準単位数	困難
学校教育学部	学校教育教員養 成課程	夜 ・ 通信	0.1	0	0	21	13	
子仪教育子部		夜 ・ 通信						
		夜 · 通信	21					
		夜 ・ 通信						
(備考)								

2.「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法	2.	「実務経験の	ある教員等によ	(る授業科目)	の一覧表の公表方法
--------------------------------	----	--------	---------	---------	-----------

https://www.hyogo-u.ac.jp/visitor/student/jissentekizyugyo.php

3 更位	生を滞た	ナート	- が困	難であ	る学部等

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校 法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いる こと。

学校名	兵庫教育大学
設置者名	国立大学法人兵庫教育大学

1. 理事(役員)名簿の公表方法

公表方法: https://www.hyogo-u.ac.jp/disclosure/organization.php 【組織の概要(役員の数、氏名、役職、任期及び経歴並びに職員の数を含む。)】で公表

2. 学外者である理事の一覧表

	-			
常勤・非常勤の別	か・非常勤の別 前職又は現職		担当する職務内容 や期待する役割	
非常勤	株式会社キャリアリンク 代表取締役	R3. 4. 1- R7. 3. 31	特命戦略担当	

(備考)

国立大学法人法別表で定める本学の理事員数は3人であるため、学外者である理事は1人である。

学校名	兵庫教育大学
設置者名	国立大学法人兵庫教育大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法 や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

授業計画(シラバス)は本学の教育課程の編成を担う「学校教育学部教務委員会」に おいて、「授業計画(シラバス)作成要領」を策定し、この作成要領に基づいて各授業 担当教員が授業計画(シラバス)を作成している。

「授業計画(シラバス)作成要領」は、「授業計画(シラバス)点検部会」等による授業計画(シラバス)点検結果を踏まえ、各授業において、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項が適切に記載されるように毎年見直しを行っている。また、授業計画(シラバス)は、紙媒体でなく、教育支援システムを活用することで、学生は学内外で適宜 WEB 上で閲覧できる。

<授業計画(シラバス)作成スケジュール>

11月:「授業計画(シラバス)作成要領」の決定

2月:各授業担当教員に授業計画(シラバス)の作成依頼

4月:授業計画(シラバス)の公表

授業計画書の公表方法

https://certate.office.hyogo-

u.ac.jp/ext_syllabus/syllabusSearchDirect.do?nologin=on

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、 学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定して いること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

本学では、上述の「授業計画(シラバス)作成要領」において、成績評価の 厳格化、成績評価基準の明確化について明記し、各授業担当教員に周知・ 徹底している。

具体的には、成績評価の方法、評価項目、割合と、評価を行う観点について明示し、本学で定めている成績評価基準に基づいて「S・A・B・C・F(不合格)」の評語により適正に評価して単位を付与している。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとと もに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学の成績評価基準に基づく評語「 $S \cdot A \cdot B \cdot C \cdot F$ 」により、次の算出方法により算出したGPAを客観的な指標としている。

<GPAの算出方法>

成績評価の評語「S」「A」「B」「C」「F」をそれぞれ「4」「3」「2」「1」「0」のグレード・ポイントに置き換え、標語ごとに修得した単位数を乗じた和の総和を、履修登録した単位数で除して算出(小数点第2位以下四捨五入)する。

 GPA= (Sの単位数×4) + (Aの単位数×3) + (Bの単位数×2) + (Cの単位数×1) + (Fの単位数×0)

 履修登録した単位数の総和

ただし、卒業の要件となる単位として認定した授業科目(成績評価の評語「N」)については、GPAの算出対象としないものとする。

客観的な指標の https://www.hyogo-算出方法の公表方法 u. ac. jp/files/hyokaki jun_gakubu. pdf 4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

教員に不可欠な資質能力として8領域を定め、これを本学の「教員養成スタンダード」と定義し、各領域と授業科目の関連性を「カリキュラムマップ」により明示している。また、学生の各領域に関連する授業科目の単位の修得状況をe-ポートフォリオを活用して可視化し、学年毎に1年間の振り返りを行わせるとともに、4年次後期の「教職実践演習」で4年間の学修を確認することにより、修得状況を確認させている。

<卒業の認定に関する方針に定める8領域>

- ①教育活動全体の基盤となる教師としての基本的な素養を身に付けるとともに、自ら それをさらに深め続けようとする能力と態度。【教師としての基本的素養】
- ②同僚、保護者、地域、関係諸機関等との連携・協働のあり方を理解するとともに、自ら連携・協働して質の高い教育活動の実現に向けた取り組みを進めようとする能力と態度【多様な関わりを構築し活かす力】
- ③子供の心身の発達や学びに関わる諸理論を理解するとともに、自ら一人ひとりの子供の状況を的確に把握し、学習指導や生徒指導等に生かそうとする能力と態度【子供を理解する力】
- ④特別な配慮や支援を必要とする子供の特性、組織的な対応のあり方や具体的な支援 方法に係る諸理論を理解するとともに、自ら生活上・学習上の支援を工夫しようとす る能力と態度【特別な配慮や支援を必要とする子供に対応する力】
- ⑤教科・領域等の学習指導・保育に必要な教育内容・方法等に関する諸理論を理解し、 学習者中心の授業・保育をデザインし実践を展開するとともに、自らの学習観・授業 感を問い続けることで、授業・保育の改善・工夫に取り組もうとする能力と態度【教 科・領域等における学習指導・保育を展開する力】
- ⑥学級経営や生徒指導等に係る諸理論を理解するとともに、自ら実践を展開・改善しようとする能力と態度【学級経営や生徒指導等を展開する力】
- ⑦学習基盤としての情報活用能力を育成する情報教育、教科・領域等の学習指導・保育や学級経営・生徒指導等における ICT・教育データの利活用、校務の情報化等に係る諸理論を理解するとともに、自ら教育の情報化を推進しようとする能力と態度【ICT や情報・教育データを利活用する力】
- ⑧上記①~⑦の資質・能力を働かせ、常に「問いを持ち課題を設定する力」、「探求し実践する力」、「省察し改善する力」を発揮し、継続的に教師としての専門性を高め、新たな教育課題の解決に向けた実践を自ら創造しようとする能力と態度【教師として学び続ける力】

上記の資質能力形成のためにカリキュラム(教育課程)を編成するとともに、各授業で定めた成績評価の方法に基づき、学修成果を厳格に評価し、4年以上在学、所定の128単位以上を修得した学生に、学士(学校教育学)の学位を授与している。

卒業の認定に関する https://www.hyogo-

方針の公表方法 u. ac. jp/admission/education/diplomapolicy.php

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4 -②を用いること。

	0 0/14 0 - 00	
学校名		兵庫教育大学
	設置者名	国立大学法人兵庫教育大学

1. 財務諸表等

7 7 7 7 7 7 7					
財務諸表等	公表方法				
貸借対照表	https://www.hyogo-u.ac.jp/disclosure/document.php				
収支計算書又は損益計算書	https://www.hyogo-u.ac.jp/disclosure/document.php				
財産目録					
事業報告書	https://www.hyogo-u.ac.jp/disclosure/business.php				
監事による監査報告(書)	https://www.hyogo-u.ac.jp/disclosure/examination.php				

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:)	
公表方法: 非公表		
中長期計画(名称:中期計画	対象年度:令和4~9年度)
公表方法:https://www.hyogo-u.ac.jp/abou	nt/plan/p3.php#cyukei	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:https://www.hyogo-u.ac.jp/about/plan/p4.php

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(大学機関別認証評価)

https://www.hyogo-u.ac.jp/about/plan/p6.php

(教職大学院認証評価)

https://www.hyogo-u.ac.jp/about/plan/kyosyokudaigakuin_hyoka.php

- (3) 学校教育法施行規則第172条の2第1項に掲げる情報の概要
- ①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 学校教育学部 学校教育教員養成課程

教育研究上の目的(公表方法:

https://www.hyogo-u.ac.jp/disclosure/kohyo/172-2.php#toc1)

(概要

本学は、「教育基本法(平成18年法律第120号)の精神に則り、学校教育にかかる諸科学の理論と応用に関する研究を総合的に推進し、文化、社会の発展に資する創造的知性と人間愛に支えられた教員を育成し、もって教育、学術、文化の進展に寄与すること」を目的とし設置されている。

本学の学校教育学部は、「学校教育教員養成課程」を置き、子どもの成長と発達についての総合的な理解と広い視野の上に、使命感、得意分野、個性を持ち、学校教育の課題に適切に対応できる実践力と人間性に優れた新人教員を養成することを目的としている。また、実践力と人間性に優れ、生涯に渡って「学び続けることのできる教師」を養成するために、教員に不可欠な資質能力を明確化しその修得過程を具体的に可視化できる「教員養成スタンダード」を定めている。

卒業の認定に関する方針(公表方法:

https://www.hyogo-u.ac.jp/admission/education/diplomapolicy.php)

(概要)

教員に不可欠な資質能力として8領域を定め、これを本学の「教員養成スタンダード」と 定義し、各領域と授業科目の関連性を「カリキュラムマップ」により明示している。また、 学生の各領域に関連する授業科目の単位の修得状況をe-ポートフォリオを活用して可視 化し、学年毎に1年間の振り返りを行わせるとともに、4年次後期の「教職実践演習」で 4年間の学修を確認することにより、修得状況を確認させている。

<卒業の認定に関する方針に定める8領域>

- ①教育活動全体の基盤となる教師としての基本的な素養を身に付けるとともに、自らそれをさらに深め続けようとする能力と態度。【教師としての基本的素養】
- ②同僚、保護者、地域、関係諸機関等との連携・協働のあり方を理解するとともに、自ら連携・協働して質の高い教育活動の実現に向けた取り組みを進めようとする能力と態度【多様な関わりを構築し活かす力】
- ③子供の心身の発達や学びに関わる諸理論を理解するとともに、自ら一人ひとりの子供の 状況を的確に把握し、学習指導や生徒指導等に生かそうとする能力と態度【子供を理解す る力】
- ④特別な配慮や支援を必要とする子供の特性、組織的な対応のあり方や具体的な支援方法 に係る諸理論を理解するとともに、自ら生活上・学習上の支援を工夫しようとする能力と 態度【特別な配慮や支援を必要とする子供に対応する力】
- ⑤教科・領域等の学習指導・保育に必要な教育内容・方法等に関する諸理論を理解し、学習者中心の授業・保育をデザインし実践を展開するとともに、自らの学習観・授業感を問い続けることで、授業・保育の改善・工夫に取り組もうとする能力と態度【教科・領域等における学習指導・保育を展開する力】
- ⑥学級経営や生徒指導等に係る諸理論を理解するとともに、自ら実践を展開・改善しようとする能力と態度【学級経営や生徒指導等を展開する力】
- ⑦学習基盤としての情報活用能力を育成する情報教育、教科・領域等の学習指導・保育や学級経営・生徒指導等における ICT・教育データの利活用、校務の情報化等に係る諸理論を理解するとともに、自ら教育の情報化を推進しようとする能力と態度【ICT や情報・教育データを利活用する力】
- ⑧上記①~⑦の資質・能力を働かせ、常に「問いを持ち課題を設定する力」、「探求し実

践する力」、「省察し改善する力」を発揮し、継続的に教師としての専門性を高め、新たな教育課題の解決に向けた実践を自ら創造しようとする能力と態度【教師として学び続ける力】

上記の資質能力形成のためにカリキュラム(教育課程)を編成するとともに、各授業で定めた成績評価の方法に基づき、学修成果を厳格に評価し、4年以上在学、所定の128単位以上を修得した学生に、学士(学校教育学)の学位を授与している。

教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法:

https://www.hyogo-u.ac.jp/admission/education/curriculumpolicy.php)

(概要)

本学で定める「教員養成スタンダード」の8領域と授業科目の関連性を示した「カリキュラムマップ」に基づき、各授業科目を体系的に配置し、カリキュラム(教育課程)を編成している。なお、各授業科目では、授業の目標に沿った成績評価の方法・評価項目・観点等を授業計画(シラバス)に明記している。また、学生による授業評価などに基づき、恒常的に組織的な授業改善に取り組んでいる。

<教育課程の編成及び実施に関する方針に定める授業科目の体系>

- ・現代的な社会課題に対応できる資質を高める「教養科目群」
- ・教職に必要な知識を養う「教職共通科目群」
- ・教科等の指導に関わる実践的な内容を学ぶ「教育内容・方法科目群」
- ・実践を通して教職の実際について学ぶ「教職探求・リフレクション科目群」
- ・自らの専門分野を深める「専門科目群」

入学者の受入れに関する方針(公表方法:

https://www.hyogo-u.ac.jp/admission/education/policy.php)

(概要)

〈求める人物像〉

- ・高等学校における教科・科目を幅広く修得し、しっかりとした基礎的な知識・技能を身 につけていること
- ・知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力を有していること
- ・豊かな人間性を備え、コミュニケーション能力や協調性を持ち、主体性を持って多様な 人々と協働する態度を有していること
- ・優れた新人教員になろうとする強い意志を持ち、意欲的に本学の教育課程に取り組むこと

〈入学者選抜の基本方針〉

・教員になろうとする強い意志を持った者を受け入れるため、大学入学共通テストを課さない総合型選抜、大学入学共通テストを課した学校推薦型選抜及び一般選抜(前期日程、後期日程)により、学力の3要素(①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)等を多面的・総合的に評価し、入学者を選抜する

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法: https://www.hyogo-u.ac.jp/disclosure/kohyo/172-2.php#toc2

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数(本務者)							
学部等の組織の名称	学長・ 副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
_	3 人		-				3 人
大学院	_	69 人	35 人	16 人	人	人	120 人
その他	_	2 人	5 人	人	1人	人	8人

b. 教員数 (兼務者)

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
1人	360 人	361 人

(教員データベース等)

各教員の有する学位及び業績 公表方法: https://hute-rd. hyogo-u. ac. jp/search/index. html

c. FD(ファカルティ・ディベロップメント)の状況(任意記載事項)

FD推進委員会を中心に、カリキュラムや授業についての内容・方法・評価等に関して、教 員と事務職員が協働し、学生の参画を得て行う、教育の質保証を目指すあらゆる取組を行って いる。

<主なFD活動>

- ・授業評価と評価方法改善
- ・ベストクラス (*1) の選定・公表
- •授業公開
- アクティブ・ラーニング研究会
- ・教職員と学生が直接対話しながらFD活動を推進する「学生・教職員FD活動交流会」
- (*1)優れた授業は教員だけでなく参加するすべての構成員(学生・教員)の高い意識があっ てはじめて成立するという考え方のもと「ベストクラス」を設けている。

(FD推進活動への取り組み:https://www.hyogo-u.ac.jp/fd/files/fdhenotorikumi.pdf)

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに 進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の	数、収容定	員、在学す	る学生	の数等				
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
学校教育学部	160 人	172 人	107. 5%	640 人	675 人	105. 5%	0 人	0 人
	人	人	%	人	人	%	人	人
合計	160 人	172 人	107. 5%	640 人	675 人	105. 5%	0 人	0 人
(借表)	-		-			-		

(備考)

b. 卒業者数	• 修了者数、進学者	数、就職者数		
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
学校教育学部	161 人 (100%)	22 人 (13.7%)	134 人 (83.2%)	5 人 (3.6%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	161 人 (100%)	22 人 (13.7%)	134 人 (83.2%)	5 人 (3.6%)
(主な進学先	・就職先) (任意記載	事項)		
(備考)				

c. 修業年限期 事項)	期間内に卒業又は	は修了する学生	の割合、留年者	数、中途退学者	数(任意記載
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
学校教育学部	167 人	156 人	9 人	2 人	0人
	(100%)	(93. 4%)	(5. 4%)	(1.2%)	(%)
	人	人	人	人	人
	(100%)	(%)	(%)	(%)	(%)
合計	167 人	156 人	9 人	2 人	0人
	(100%)	(93. 4%)	(5.4%)	(1.2%)	(%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

「教育課程の編成及び実施に関する方針」に基づいて編成された授業科目について、授業計画 (シラバス)で授業の方法及び内容を明示するとともに、毎年作成し学生に配付する「授業 暦」、「授業時間表」により授業を実施している。

公表方法:https://www.hyogo-u.ac.jp/disclosure/kohyo/172-2.php#toc5

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

学修の成果に係る評価は、授業計画(シラバス)に記載の成績評価の方法、評価項目、割合と、評価を行う観点、及び本学で定めている成績評価基準に基づいて「S・A・B・C・F」の評語により行っている。また、卒業及び学位の認定は、本学に4年以上在学し、所定の128単位以上を修得することにより行われる。

1		- •		
学部名	学科名	卒業又は修了に必要 となる単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
学校教育学部	学校教育教員養成 課程	128 単位	有	49 単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
GPAの活用状況(任意記載事項)		公表方法:公表方法	: なし	
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法: https://www.hyogo- u.ac.jp/disclosure/l	kohyo/gakubu_menkyo.	pdf

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法: https://www.hyogo-u.ac.jp/disclosure/kohyo/172-2.php#toc7

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
字校教育	学校教育教 員養成課程	535, 800 円	282,000 円	76, 660 円	厚生会費、後援会費、学校教育 研究災害傷害保険料等
学部		円	円	円	
		円	円	円	
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

- ・クラス担当教員により、学生の修学その他学生生活に関する事項について、学生に対して指導助言を行うクラス制度を設けている。
- ・学生の経済的支援を行うため、民間の奨学財団等の募集周知を図り、適宜推薦を行っている。また、新型コロナウイルス感染症による家計急変のあった学生を対象とした入学料免除及び徴収猶予制度、並びに授業料免除及び徴収猶予制度等を設けている。
- ・心身等の理由から、実習に対して不安を感じている学生から相談があれば、学生から支援の要望等も含めた聞き取りを実習担当教員が行い、実習校と連携を図りながら、学生の状況に応じて、対応している。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

- ・学部1年次から4年間を見通した就職ガイダンスを実施
- ・教員・保育士就職に向けて、学部3年次学生を対象に「教師力養成特別演習」を通年で 開講し、学校や保育現場で起こる様々な教育課題に対応した授業を展開
- ・教採特別講座や模擬面接など、就職活動に役立つ講座を多数開講
- ・自己のキャリアデザインについて改めて考えるきっかけとなるよう、すべての学部学生 がキャリア開発指導員と1回以上面談する機会を設定
- ・教員・保育士就職希望学生を中心に、学校長等経験者であるキャリア開発指導員による 就職相談を実施
- c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

- ・学生の修学及び生活相談等に応じられるように、学生何でも相談窓口を設置している。
- ・学生の保健管理に関する専門的業務を担当する施設として保健管理センターを設置し、 医師又はカウンセラーによる健康相談、心理相談を行っている

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法: https://www.hyogo-u.ac.jp/disclosure/kohyo/172-2.php

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄(合計欄を含む。)について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F128110108663
学校名 (○○大学 等)	兵庫教育大学
設置者名(学校法人〇〇学園等)	国立大学法人兵庫教育大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対 によ	象者(家計急変 る者を除く)	52人	55人	55人
	第I区分	29人	29人	
内	第Ⅱ区分	-	-	
訳	第Ⅲ区分	-	ı	
	第IV区分	0人	0人	
	十急変による 対象者(年間)			0人
	計(年間)			55人
(備考)				

- ※ 本表において、第 I 区分、第 II 区分、第 III 区分、第 III 区分、第 III 区分、第 III 区分、第 III 区分、第 III 区分、第 IV 区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令(令和元年政令第 4 9 号)第 2 条第 1 項第 1 号、第 2 号、第 3 号、第 4 号に掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。
- 2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数
- (1)偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより 認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専 攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含 む。)及び専門学校(修業年限が2年以下のもの に限る。)		
	年間	前半期	後半期	
修業年限で卒業又は修了で きないことが確定	0人	人	人	
修得単位数が標準単位数の 5割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間数 が標準時間数の5割以下)	0人	人	人	
出席率が5割以下その他学 修意欲が著しく低い状況	0人	人	人	
「警告」の区分に連続して 該当	0人	人	人	
計	0人	人	人	
(備考)				

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

					定専攻科を含む。)、高 学校(修業年限が2年以
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学(期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。)の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の 停止を受けた者の数

1 - 3/4/1-1-1/2/			
3月未満の停学	0人		
訓告	0人		
年間計	0人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

₹. 週俗部足にわける子未		日と文けた百号数	
	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専 攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含 む。)及び専門学校(修業年限が2年以下のもの に限る。)	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の 6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間数 が標準時間数の6割以下)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1		人	人
出席率が8割以下その他学 修意欲が低い状況	0人	人	人
計	_	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。